FIWC関東
Friends International Work Camps
関東委員会
with S.C.I. (Service Civil International) Japan

定例委員会報告

2001.1

参加者：服部雅行、目黒美穂子、宮崎沙頼、笠眉彦、宮本久美子、原田健一、青山哲也、藤澤真人、峰岸直寛、奥山太介、佐藤恵理、西尾雄志、奥村浩毅、松永亜矢子、小野浩平、田中宇宙、小河原英貴　以上17名

2001年1月20日（土）目黒鍼療院にて。

担当：田中宇宙

FIWC関東委員会の呼びかけで、SCI-Japanと合同で行っています。

活動報告

委員長を決めよう！

田中：あ、あの、委員長を決めたほうがいいと思うんだけど。えーと、そうだな、青山、お前説明しろ！

青山：お、俺かい！　急にふられても・・・。ええーと、前々から話してたんですけど、委員長を決めた方がいいと。現在の形は、バングラやフィリピン、ネパールなどいろんな形でキャンプが進められていて、それぞれのキャンプにリーダーがいるわけなんだけれども、そういったキャンプを把握して、窓口として、いろんな人に説明できる人がいると思うんです。そういった人によって、それぞれのキャンパーの横のつながりを作ることが重要だと思うんです。というわけで、今もキャンプに参加している現役のキャンパーから、代表をつくったほうがいいと思うんですけど。

田中：ということで、誰かやる人？

西尾：僕やります。

僕も前々から委員長という形の代表がいると思ってました。現在の定例会は、FIWCの関東委員会がSCIジャパンに呼びかける形で、両団体が一緒になって開催されてきました。それで一年経ったわけですが、現在事務的な問題においても、そしてキャンプの理念の問題においても、両者の関係をはっきりさせなければならない段階にきてると思います。それは事務的な問題としては、定例会報告の発送費用の問題や名簿の管理に関してです。また理念的な問題としては、キャンプの準備の進め方やキャンプ中のあり方に関してです。そういった問題を代表としてSCI側と話す人間がいると思ってました。ということで、僕、委員長やります。

田中：それでいいですか？　ということで西尾にやってもらいます。任期は一年でいいかな。あと会計の仕事も今西尾がやっているので、大変だろうから誰かほかに会計やる人作りたいんですけど。

――立候補者が名乗り出ない

青山：じゃあ、それは次回の定例会で決めよう！

バングラデシュキャンプ（SCI-Japan）

バングラデシュのランガバリ島でキャンプをします。詳細は以下のとおり。

場所：バングラデシュ、ランガバリ島

内容：井戸掘り、トイレ作り、フェスティバルなど

日程：2月14日～3月3日（先発隊は2月7日から）

参加者：30名（男性11名、女性19名、満員御礼）

次回の定例会にて、キャンプ報告を行います。

鳥居厚志

FIWC関東定例委員会報告

FIWC関西委員会年末キャンプ

例年通り、関西委員会の主催で、奈良の交流の家で年末キャンプが行われた。関東委員会からも、田中兄、松本譲、原田健一、西尾雄志らが参加。

ワーク内容は交流の家の板はり、マージャンなど。釜ヶ崎に行ったメンバーもいた。

年末総会では、関東委員会の活動報告（ネパールキャンプ、フィリピンキャンプなど）も行われる。

○定例会報告を関西委の報告に同封してもらう

関東委員会の定例会報告を、関西委員会の定例会報告と一緒に関西委員会メンバーに発送してもらう話がついた。それに関して関西委員会側から出された条件は、

1）人数分印刷して、封筒に入るように折り曲げた上で、まとめて関西委員会に提出すべし

2）関東委員会の定例会報告を入れると、郵送代が10円高くなるので、超過分は関東委員会が負担すべし

以上の2点。今回の関東委員会定例会報告から、関西委員会にも送る予定。これで、関東委員会の定例会報告は700人以上の人に発送されることになる。

SCI-Japan主催国内キャンプ

今年、SCI主催で国内キャンプが2箇所で開催予定。

○山梨小杉農園キャンプ（8月2日～16日）

山梨の小杉農園でキャンプをする。昨年参加できなかった盆踊りにも参加できるように、日程が組まれている。

○浜松キャンプ（8月15日～28日）

在日ブラジル人に関わるワークをする。両キャンプともSCI-Japanの呼びかけで、ヨーロッパなどから多数のキャンパーが参加する予定。海外キャンプの前に、国内で外国人と一緒にキャンプをするのもいいかも。両キャンプとも総リーダー募集中!!　［豊田、宮本久美子］

SCI-Japan
豊田

SCI-Japan運営委員会開催

1月27日に八王子の豊田さん宅で、SCI-Japanの運営委員会を開催する。SCI-Japanの今後の活動方針などを話し合う。［連絡先：豊田］

SCI海外情報

去年SCI-JapanとSCI-Nepalとで第1回目のバイラテラル（2国間）キャンプが行われた。現在、SCI主催でバングラデシュとネパールで2国間キャンプが行われているが、スリランカ、インド、マレーシアのSCIからも二国間キャンプをやらないかという提案がきている。新たな国でキャンプを立ち上げたい人は、やってみませんか？［連絡先：豊田］

ネパールキャンプ（SCI-Japan）

前回の定例会で話し合ったとおり、キャンプ参加費として集めたお金の残金（1人あたり2万1千円）を、定例会の場でキャンパーに返却。端数は、SCI-Japanの会計にまわした。

宮本久美子

江戸川区あっちこっちの会

心の病、不登校の人が集まれる場所。

峯岸直廣

グリーンジャパン

SCI-ドイツのメンバー、ケッタ・ローベルトさんが早稲田大学に留学しています。その彼が、日本の環境問題の現状を目の当たりにして思いついたのが『GREEN Japan』、具体的な活動としては布製の袋を使ってビニール袋を減らす運動や、小学校訪問、月1回の環境フォーラムを考えています。みんな環境問題の事はよく知っているし、何かやらなくちゃとは漠然と考えている。

しかしきっかけがない。そこでローベルトは、自分が

育った環境先進国ドイツのやり方を活かして、そのきっかけ作りになれたらとGREEN Japanを考えたそうです。GREEN Japanはその具体的な活動はもちろん、みんなへの情報の提供にも重きを置いています。環境フォーラムは、様々に活動している人の話を聞いた後、集まった人が自分の興味によって参加したい活動に参加できるような場所を提供することと、そこで話し合いをすることを目的でひらかれます。第1回目のフォーラムは1月24日に大成功をおさめました。

現在早稲田大学の留学生やその友達、など外国人も交えて15人ほどで活動しています。私も異国の地にいるというのにまったく物おじしない精力的な彼らと共に活動するうちに、その危機感にも似だ“AWARENESS”に刺激され、日本人は環境問題を意識しないように意識しているのではないかと気付かされました。外国人と考える環境問題は新鮮で、なんだかどうして楽しんで考えられます。彼らの、自国での成功から来る確信に満ちた気楽な提案や、日本人の感覚に縛られない考えに振り回されてみるのも、その強引さに面をくらいながらも引っ張られてみるのも案外面白いものです。環境問題は“Awareness”だよ。No Ploblem We Can と笑って楽しく活動をこなすローベルトと一緒にやってみたい人は是非。

［宮本久美子］

寄稿

阪神・淡路大震災の日に寄せて

西尾雄志

1995年1月17日阪神・淡路地方で大地震が起こってから、6年が経った。当時、関西委員会主催の震災キャンプに参加したことが、その後の僕の人生を大きく変えたと思う。震災キャンプは、毎年フィリピンやバングラなどで行われる短期間で終了するキャンプと違い、何ヶ月にもわたる長期間のキャンプだった。

ワークキャンプがこのように長期間にも及ぶと、キャンパーたちの間で、必然的に、「自分たちは何のためにここにいて、何をするべきなのか」といったような理念的な話し合いをする時間が増えてくる。神戸では、毎晩のように睡眠時間を削りながら、キャンパー同士、終わらないミーティングを続けていた。その中でキャンパー一人一人が考えている、キャンプの意義が、たくさん出てきた。そういった無数の意見や思い入れの一つ一つを今も覚えているわけではないが、その中でキーワードとなるのはやはり、「人との出会いと、その人とのつながり」であったように思う。

ワークキャンプとして活動をする以上、たとえば「災害救援」だとか、「井戸掘り」といったように何らかの看板が文字として掲げられるわけだが、実際のキャンプの中にあるのは常に、具体的な一個の人間との出会いと、関係性だ。そういった具体的な人間と、何らかの社会的矛盾が噴出している場で出会うことが、ワークキャンプの持つ意義だと思う。

地震被害なり、水道事情の悪さなりといった問題は、それが日本であろうと海外であろうと、今日の情報社会の中に住んでいれば、いくらでもそれに関する情報を手に入れ、考えることができる。しかし、そんな中でわざわざ、自分の無能さも省みず、足手まといになる懸念も捨てて、わが身を投じ、その中に飛び込んでいく意味は何かと言われれば、そこで具体的な人間と出会うことにあるのだと思う。

現象学の創始者であるドイツの哲学者フッサールは、学問的に抽象化された世界から、その根源にあり、それを基底的に意味付けている生活世界の重要性を主張した。この意味を今日の状況に当てはめて考えてみれば、それは、「文字や情報などといった抽象的な世界の中でものを考えるのではなく、その基盤となっている具体的な生活の場でものを考えることが重要だ」ということだ。

そういった具体的な生活の場における出会いを提供するのが、ワークキャンプの意義であると思う。つまり、神戸キャンプで言えば、震災という問題を、テレビや新聞からもたらされる情報の中でのみ考えるのではなく、キャ

FIWC関東定例委員会報告

ンプで出会うさまざまな具体的な人間を通して考える、ということだ。そういった形で社会問題に触れることによって、そういった問題は、単に、ブラウン管から流れ出る、抽象的かついまいち実感の湧かないものではなく、目の前にいる自分の具体的な友達が抱える、極めて切実な問題として捉えることができるようになる。

情報が多くなればなるほど、そしてそういった情報を簡単に得ることができるようになればなるほど、そういった情報がもつ重要さ、切実さといったものが、どんどん希薄になっていく。ワークキャンプのもつ意味は、そういった、切実ではあるが、いまいちぴんとこない問題を、直接抱えている人間に友達として出会える場を提供するところにあると思う。

そういった人々との出会いにより、震災によって吹き出た社会矛盾が、ハンセン病という社会矛盾が、経済格差という社会矛盾が、障害者教育という社会矛盾が、具体的な問題として、自分の友達が抱えている問題として、自分自身に提示される。そういった問題意識を喚起させてくれる源が、キャンプで出会うかけがえのない人たちなのだ。

こう考えていくと、神戸キャンプで出会った人々の置かれている状況はシビアだった。それは、神戸で出会った人たちに高齢の人たちが多かったのも影響している。先日、神戸で一緒にキャンプをしていた友達から、神戸で知り合った人がなくなった話を聞いた。僕が震災からずっと関わってきた神戸のおっさんも、2年前に死んだ。あの大震災から月日がたち、6回目の1月17日を迎えることになった。神戸のキャンプという場で出会った、もう死んでしまったあのおっさんと僕との4年間の奇妙な関係がもつ意味を、今改めて考え直してみたいと思う。

モグネット
www.mognet.org
ワークキャンプの写真が満載！
ハンセン病関連の本が買える！
定例会報告のPDFをダウンロード！

FIWC関東委員会会計より

2000年FIWC関東委員会収支報告（西尾）

収入	
昨年からの繰越	121,380
年会費	75,000
計	196,380
支出	
封筒など文具代	6,892
印刷代	178
郵送料	64,390
計	71,460
現在の残高	124,920

年会費は3000円です。

以下の方より年会費をいただきました。（敬称略）

足立陽子、伊木沢稔、尾形修一、巽重雄、浜島恭子、平野敏彦、藤澤真人、峰岸直寛、目黒美穂子、渡辺光雄、渡辺康子、

郵便振替 口座番号 00170-2-565117
加入者名：FIWC関東委員会

※領収証の発行を希望される方は、その旨お知らせください。

次回の定例会　隔月で開催中

2001年3月24日（土）19時から
東京・新中野「目黒鍼療院」にて

フィリピンキャンプ、バングラデシュキャンプの報告など

担当：西尾雄志

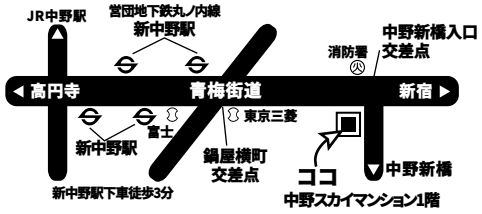
フレンズ国際労働キャンプ(FIWC)関東委員会
委員長 西尾雄志

文責：服部雅行

編集：茂木 亮　mog@mognet.org

PDF版では、個人の連絡先などを掲載しておりません。
必要な方は下記までお問い合わせください。
mog@mognet.org

目黒鍼療院



東京都中野区本町4丁目5-14　phone 03-3381-9381
完全予約制となりました。（日・祝休診）